

**【新規格付け】 岡山大学**

発行体格付け： AA+ [格付けの方向性：安定的]

格付投資情報センター(R&amp;I)は上記の格付けを公表しました。

**【格付け理由】**

国立大学は2004年4月に国立大学法人化し、政府の1機関という位置付けから独自の法人格を持つ存在に変わった。しかし日本における教育や学術研究の重要性を考えると、国立大学の位置づけは依然として高い。学生納付金や附属病院収入などの自己資金に加え、国からの運営費交付金などによって運営に支障を来さない仕組みになっている。経費削減努力は求められるが、余程のことがない限り、収支が恒常的に赤字になることはまずない。附属病院の施設整備などの面でも相応の制度が用意されている。こうした点を踏まえると国立大学法人セクターの信用力は極めて高いとR&Iは考えている。

岡山大学は岡山市にキャンパスを置く国立大学。11学部7研究科や附属病院、附属学校などを展開している。2004年4月の法人化後、意向投票結果のみによる学長選出を取りやめたり、各種の委員会を廃止するなど、新しい形の組織運営を実践している。国立大学としてはいち早く教職員の評価制度を導入するなど、先進的な取り組みには評価も高い。これまでのところ中期目標・中期計画は順調に進展している。

運営費交付金の削減が進む環境にあつて、岡山大学では競争的資金の獲得を最重点目標に掲げている。組織の体制整備とともに獲得額は増加し、同時に研究水準の高度化も図っている。国家公務員数の削減目標が国立大学にも準用されることを受けて、岡山大学では人件費の削減に関する全学の合意を得た。支出の削減が不可避な環境にあつては現実的な対応を取らざるを得ず、いち早く人件費削減の道筋をつけたことは評価できる。附属病院は全国の国立大学附属病院のなかでも存在感が大きい。例えば手術件数では東京大学、大阪大学に次いで第三位であるなど、高度な医療を手がけつつ、収支も比較的良好である。

旧制帝国大学を母体とする国立大学法人などに比べると国家資金や外部資金を獲得する力は今のところやや弱いとみられ、これが格付けを制約している。しかし、組織運営の工夫などによってこれを補う取り組みに成果を上げている点は評価できる。以上を総合的に判断し格付けはAA+、格付けの方向性は安定的とした。

**【格付け対象】**

発行者：岡山大学

名称	格付け	格付けの方向性
発行体格付け	AA+ (新規)	安定的

☆発行体格付けとは、発行体が負う金融債務についての総合的な債務履行能力に対するR&Iの意見で、原則としてすべての発行体に付与する。個々の債務(債券やローンなど)の格付けは、契約の内容や回収の可能性などを反映し、発行体格付けを下回る、または上回ることがある。